

# 令和8年用西洋梨病害虫防除基準

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度(水100ℓ当たり薬量)	収穫前使用日数	総使用回数	10a当たり散布量	注意事項(収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴
前年 の落葉期 から発芽直 前まで 休眠期		1. 水(98ℓ)				1. 石灰硫黄合剤10倍(発芽前、-)を散布する場合、右記防除7日前に実施する。 2. ハーベストオイル50倍に替えて、スプレー油50倍(発芽前、-)を使用してもよい。 3. モモシンクイガが多い園では、開花1週間前までマブリックE W劇2,000倍(30日前まで、2回以内)を散布する。 4. ハマキムシ類が多い園では開花直前にフェニックスフロアブル4,000倍(前日まで、2回以内)を散布する。	
	ハダニ類	2. ハーベストオイル50倍(2ℓ)	発芽前	一	250ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ
	胴枯病	3. トップジンM水和剤1,000倍(100g)	前日まで	6回以内			
	カイガラムシ類幼虫	4. アプロードフロアブル1,000倍(100mℓ)	30日前まで	2回以内			
4シングル 月イム別 下旬 対策	ナシヒメシンクイ	1. ナシヒメコン50~100本/10a	一	一	一	1. ナシヒメシンクイの多い園は、下表「交信かく乱剤(シンクイムシ対策)」を参照し、設置する。ハマキムシ類の多い園では、ナシヒメコンに替えてコンフューザーNを150~200本/10a設置してもよい。	設置日 月 日 設置量 本
殺虫剤、殺ダニ剤、除草剤の散布制限		訪花昆虫を保護するため、開花1週間前から巣箱を撤去するまでは殺虫剤、殺ダニ剤並びに除草剤の散布は絶対しない。					
～② 巣落 箱花 撒1 去週 後間 一後	胴枯病	1. 展着剤(ハイテンパワー)10,000倍(10mℓ)				1. 胴枯病の患部を削り取りバッチャート(3回以内)を塗布する。	
	黒星病 赤星病	2. トップジンM水和剤1,500倍(66g)	前日まで	6回以内		胴枯病の萎凋枯死花そうや枯死枝は、徹底せん除し、適切に処分する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	アブラムシ類 シンクイムシ類 カムシ類	3. サンリット水和剤4,000倍(25g)	7日前まで	3回以内	450ℓ		
		4. モスピラン顆粒水溶剤劇2,000倍(50g)	前日まで	3回以内			
③ 5月 輪紋病 下旬	輪紋病	1. 展着剤(アビオン-E)1,000倍(100mℓ)				1. この時期の薬剤散布は幹、太枝まで十分かかるよう丁寧に散布する。	
	アブラムシ類 シンクイムシ類 ハマキムシ類	2. オキシラン水和剤500倍(200g)	21日前まで	9回以内	500ℓ	2. 品種や生育ステージによって薬害やサビが発生する可能性があるので乾きやすい時間帯に散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		3. ダイアジノン水和剤34劇1,000倍(100g)	14日前まで	6回以内		3. もも、りんご等に薬害が生じる場合があるため飛散には注意する。	
		4. バイカルティ1,000倍(100g)					
輪紋病、胴枯病の重点防除時期(6月～7月)なので枝幹にもたっぷり(600ℓ/10a)散布する。特に、降雨が多い場合、防除間隔が7日以上空かないように注意する。							
④ 6月 胴枯病 上旬	輪紋病	1. デランフロアブル劇1,000倍(100mℓ)	60日前まで	4回以内		1. 極早生品種のある園では、デランフロアブルに替えてトップジンM水和剤1,500倍(前日まで、6回以内)を散布してもよい。	
	ハマキムシ類 シンクイムシ類	2. テルスター水和剤1,000倍(100g)	前日まで	2回以内	600ℓ	2. カイガラムシ類の多い園では、6月上旬～6月中旬に発生状況を確認し、トランスマフォームフロアブル2,000倍(前日まで、3回以内)を枝幹に十分かかるように加用して散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		3. バイカルティ1,000倍(100g)					
⑤ 6月 輪紋病 中期 中旬	輪紋病	1. カナメフロアブル劇4,000倍(25mℓ)	前日まで	3回以内		1. 殺ダニ剤を使用する場合は、4日前まで草刈りを終了する。除草剤を使用する場合は殺ダニ剤散布の1週間前までに終わらせる。	
	シンクイムシ類 アブラムシ類 カムシ類	2. ダントツ水溶剤2,000倍(50g)	前日まで	3回以内	600ℓ	2. カナメフロアブル劇に替えて、パレード15フロアブル2,000倍(前日まで、2回以内)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		3. バイカルティ1,000倍(100g)					
⑥ 6月 防除下旬	輪紋病	1. 展着剤(アビオン-E)1,000倍(100mℓ)				1. 例年ナシヒメシンクイの発生が多い園では6月下旬～7月上旬にナシヒメコン50本/10aを追加設置する。	
	アブラムシ類 シンクイムシ類 ハマキムシ類	2. ナリアWDG2,000倍(50g)	前日まで	3回以内		2. 胴枯病の発生している園ではトップジンM水和剤1,500倍(前日まで、6回以内)を加用して散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	ハダニ類	3. ダイアジノン水和剤34劇1,000倍(100g)	14日前まで	6回以内	600ℓ	3. カネマイドフロアブルに替えて、ダニコングフロアブル2,000倍(前日まで、1回)を使用してもよい。	
		4. カネマイドフロアブル1,000倍(100mℓ)	前日まで	1回			
		5. バイカルティ1,000倍(100g)					

## 耕種的防除

全般	1. 適切な肥培管理等により、樹勢を健全に保つ。 2. 園地の角など薬剤が到達しにくい部分や混み合っている部分の枝はせん除し、薬液が隅々まで到達しやすいようにする。 3. 病害虫は樹上の粗皮や芽の付近に越冬するものが多いので、効率防除を図るために休眠期防除前に粗皮削りを行なう。
輪紋病	1. 樹勢が弱いと発生しやすいので、樹勢の維持に努める。 2. 休眠期にいぼ皮病斑を削り取り、削り取った病患部は適切に処理する。
炭そ病	1. 園周辺のニセアカシヤやクルミ等は、伝染源になるので除去する。
胴枯病	1. 樹勢が弱いと発生しやすいので、樹勢の維持に努める。 2. 胴枯病の被害枝は見つけしだい切り落とし適切に処分する。

## 西洋梨施肥基準(成木: 10a当たり)

品種・目標収量	肥料名	施肥量(kg)	施肥時期	N	P	K
ラ・フランス(2,500kg)	フレッシュフルーツ有機70	100kg	9月下旬	10.0	5.0	2.0

発行：JAさがえ西村山・さがえ西村山西洋梨部会

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度(水100ℓ当たり薬量)	収穫前使用日数	総使用回数	10a当たり散布量	注意事項(収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴
輪 紋 病 ・ 胴 枯 病 重 点 防 除	輪紋病 アブラムシ類 シンクイムシ類	1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍 (100mℓ)			600 ℓ	1. この時期、オキシラン水和剤に替えて、 I C ボルドー412 30倍 (ー、ー) を散布 してもよい。但し、隣接する園に飛散し ないよう注意する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. オキシラン水和剤 500倍 (200 g)	21日前まで	9回以内			
		3. スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 (50 g)	前日まで	3回以内			
		4. バイカルティ 1,000倍 (100 g)					
輪 紋 病 ・ 胴 枯 病 重 点 防 除	輪紋病 シンクイムシ類 カイガラムシ類	1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍 (100mℓ)			600 ℓ	1. この時期、オキシンドー水和剤80に替えて、 I C ボルドー412 30倍 (ー、ー) を散布 してもよい。但し、隣接する園には 飛散しないよう注意する。 りんご隣接園では、オキシンドー水和剤 80に替えてオキシラン水和剤500倍 (21日 前まで、9回以内) を使用する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. オキシンドー水和剤80 1,400倍 (71 g)	21日前まで	9回以内			
		3. オリオン水和剤40 1,000倍 (100 g)	3日前まで	2回以内			
		4. バイカルティ 1,000倍 (100 g)					
輪 紋 病 ・ 胴 枯 病 重 点 防 除	輪紋病 シンクイムシ類	1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍 (100mℓ)			600 ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. ベルクート水和剤 1,000倍 (100 g)	14日前まで	5回以内			
		3. サムコルフロアブル10 5,000倍 (20mℓ)	前日まで	3回以内			
		4. バイカルティ 1,000倍 (100 g)					

品種ごとの収穫開始時期を考慮し、各薬剤の収穫前使用日数を厳守する。

⑩ 前回散布 7日後	輪紋病	1. オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50mℓ)	前日まで	3回以内	600 ℓ	1. コロマイト乳剤は「ル・レクチエ」に薬害の 恐れがあるので注意する。 2. コロマイト乳剤に替えて、ダニゲッターフロ アブル2,000倍(前日まで、1回)を使用して もよい。 3. ダニゲッターフロアブルは、開花期の水 稻にかかった場合、穂に薬害の生じるお それがあるため、からないように注意 する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
⑪ 8月上旬	ハダニ類	2. コロマイト乳剤 1,000倍 (100mℓ)	前日まで	1回	600 ℓ	1. りんご、もも、スモモの近接園では飛散し ないよう十分に注意する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
⑫ 8月中旬	輪紋病	1. パレード15フロアブル 2,000倍 (50mℓ)	前日まで	2回以内	600 ℓ	1. ハダニの発生が多い園では、下記の殺ダニ剤の いずれかを総使用回数に注意して単用で散布す る。	散布日 月 日 散布量 ℓ
⑬ 8月下旬	輪紋病	2. ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍 (33 g)	前日まで	3回以内	600 ℓ	1. ハダニの発生が多い園では、下記の殺ダニ剤の いずれかを総使用回数に注意して単用で散布す る。	散布日 月 日 散布量 ℓ
⑭ 9月上旬	輪紋病	3. アグロスリン水和剤(劇) 1,000倍 (100 g)	前日まで	3回以内	600 ℓ	1. ハダニの発生が多い園では、下記の殺ダニ剤の いずれかを総使用回数に注意して単用で散布す る。	散布日 月 日 散布量 ℓ
⑮ 9月中旬	輪紋病	1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍 (10mℓ)			600 ℓ	1. アグロスリン水和剤(劇)に替えて、スカウトフ ロアブル(劇)2,000倍(前日まで、5回以内)を 使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
⑯ 9月下旬	輪紋病	2. オーソサイド水和剤80 600倍 (166 g)	3日前まで	9回以内	600 ℓ	1. アグロスリン水和剤(劇)に替えて、スカウトフ ロアブル(劇)2,000倍(前日まで、5回以内)を 使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
⑰ 10月上旬	輪紋病	3. バリアード顆粒水和剤(劇) 2,000倍 (50 g)	前日まで	3回以内	600 ℓ	1. フリントフロアブルに替えてストロビードラ イフロアブル2,000倍(前日まで、3回以内) を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
⑱ 10月中旬	輪紋病	1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍 (10mℓ)			600 ℓ	1. アグロスリン水和剤(劇)に替えて、スカウトフ ロアブル(劇)2,000倍(前日まで、5回以内)を 使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
⑲ 10月下旬	輪紋病	2. オーソサイド水和剤80 600倍 (166 g)	3日前まで	9回以内	600 ℓ	1. アグロスリン水和剤(劇)に替えて、スカウトフ ロアブル(劇)2,000倍(前日まで、5回以内)を 使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
⑳ 11月上旬	輪紋病	3. アグロスリン水和剤(劇) 1,000倍 (100 g)	前日まで	3回以内	600 ℓ	1. アグロスリン水和剤(劇)に替えて、スカウトフ ロアブル(劇)2,000倍(前日まで、5回以内)を 使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
㉑ 11月下旬	輪紋病	1. ストライド顆粒水和剤 1,500倍 (66 g)	前日まで	3回以内	600 ℓ	1. 降雨が続く場合は、ナリア WDG 2,000倍(前 日まで、3回以内)、ロディー水和剤(劇)1,000倍 (前日まで、2回以内)を追加で散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
㉒ 12月上旬	輪紋病	2. ヨーバルフロアブル 10,000倍 (10mℓ)	前日まで	2回以内	600 ℓ	2. ヨーバルフロアブルに替えて、テッパン液剤 2,000倍(前日まで、2回以内)を使用しても よい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
㉓ 落葉後	越冬病害虫 (胴枯病) (輪紋病)	1. 水 (90 ℥)			250 ℥	1. 越冬病害虫の多い園では本防除を行なう。	散布日 月 日 散布量 ℓ

西  
洋  
梨

交信かく乱剤(シンクイムシ対策)

対象病害虫	薬剤名	使用方法
モモシンクイガ ナシヒメシンクイ ハマキムシ類	コンフューザーN	4月下旬にナシヒメコンを50~100本/10a設置する。 発生が多い場合は6月下旬~7月上旬に50本/10a追加設置する。ハマキムシが多い場合は、4月下旬にコンフューザーNを150~200本/10a設置し、7月上旬にナシヒメコン50本/10aを追加設置する。
ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン	

- 設置場所は、目通りの高さに8割、2割を上部に、園内均一に設置する。
- 傾斜上部の設置割合を1~2割多くする。
- 園周辺の立木や、支柱などにも設置する。
- 防風ネットなどを利用する。
- 高温時は成分の揮発が早いので、必要に応じて追加設置する。